

# 緑化だより

No.149 令和元年5月号



コミヤマスマミレ

- 季節の花(カキツバタ)
- 昆虫の話(まん丸い運び屋)
- 小さな世界こけ(身近なコケ(4))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内



000000 緑化だよりの本

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp> E-mail [hiroshima@ryokka-c.jp](mailto:hiroshima@ryokka-c.jp)

# 季節の花

## カキツバタ

「かきつはた 衣(きぬ)に摺(す)り付け大夫(ますらを)の

気襲(きそ)ひ 獵(かり)する月は 来(き)にけり」

大伴家持 万葉集 卷17:3921

これを訳しますと

かきつはた(万葉時代には濁点はなかった)の花の紫を搾った汁で染めた衣を着重ねて、勇ましい男子たちがくす玉に入れる薬草狩りに行く日がやってきました。

宮中の初夏の行事で陰暦5月5日に、天皇は沢山のお供を連れ山野に出かけて、薬草を摘みます。つまり薬草狩りのことです。

大伴家持が天皇のお供ができるようになった喜びの様子を奈良の居宅で詠んだ歌です。

カキツバタはアヤメ科の多年草です。葉は幅広で筋はなく、ほぼ平坦です。原産地は日本、朝鮮半島、東シベリアで、古くから日本に自生する植物です。5～6月にかけて、濃い紫(時に白)の花を付けます。昔はこの花の汁で布を染めました。つまり「花摺り」を行ったことから、和名は(書き付け花)と言われ、これが転化して「カキツバタ」になったと言われています。

カキツバタの漢名は、杜若(とじゃく)と燕子花(えんしか)の二通り書かれていますが、この二つの植物はカキツバタとは無縁の別種の植物であると牧野富太郎博士が指摘しています。杜若はショウガ科、燕子花はキンポウゲ科とのことです。「故事ことわざ辞典」に平安時代後期の源頼政が怪しい鳥「ぬえ」を退治した褒美に、菖蒲という美人を賜ったとき、12人の美人の中から選びだすように言われて「いずれが菖蒲(アヤメ)か 杜若(カキツバタ)」と詠ったことから、どれも美しく優劣をつけがたいことわざになりました。

今月1日から、**新元号「令和」**となりました。「令和」は万葉集 卷5、梅の花の序「時に初春の令月 気淑(うるは)しく風和(やわ)らぐ」から引用され、令月は陰暦2月の異称で「何事をするにも良い月、めでたい月」を表しており「穏やかで幸福な世が始まる」ことを意味する元号と考えられます。西暦730年、大伴旅人が太宰府の長官として滞在中に居宅で宴があり、梅の歌32首が詠まれました。その序文から「令和」が引用されました。(上村)



カキツバタ

# 昆虫の話

## まん丸い運び屋・クロマルハナバチ

春、野山に花が咲き始めると、多くのハチが花粉を集めに訪れます。その中でもひときわ目立つのがクロマルハナバチです。このハチは胴体が黒く、お尻はオレンジ色をしていて、全身がモコモコとした毛に覆われています。

春先に花を訪れるクロマルハナバチは冬眠から目覚めた女王バチです。女王バチは地中の穴、中でも野ネズミの古い巣穴に巣を作ります。この巣はハチの出す蠟と花粉から

できていて、丸い壺をいくつもくっつけたような形をしています。女王バチはこの壺に蜜と花粉を詰め込み、幼虫を育てます。やがて働きバチが誕生すると、花粉集めと子育ては働きバチが担うようになり、女王は巣にこもって産卵に専念します。

花粉を集めるクロマルハナバチの姿は、森林公園や緑化センターのいたるところで見られます。彼らは花に頭を突っ込んで蜜や花粉を集めると、また次の花へとせわしなく飛び回ります。この時、彼らは全身の毛に花粉をつけて、花から花へ花粉を届ける役目を果たします。この働きのおかげで、多くの植物が実を結ぶことができます。最近ではこの働きに注目して、ハウス栽培のイチゴやトマトの花を受粉させるためにクロマルハナバチを用いることもあるようです。



ツツジの花に止まるクロマルハナバチ

マルハナバチの仲間は、名前の通り体が丸いのが特徴です。あまりに丸いので、かつての科学者はこの体型では空を飛ぶ力を生み出せないと考え、「マルハナバチが空を飛べるのは、自分が飛べないことを知らないからだ。」と言いました。しかしその後研究が進むと、丸い体型でも空を飛ぶ力を生み出せることがわかってきました。現在、マルハナバチの飛ぶ仕組みを、新しいドローンなどに生かす試みが進められています。近い将来、丸い飛行物体が皆さんの家に荷物を届けるようになるかもしれません。(市森林公園こんちゅう館 逸見)

## 小さな世界 こけ

### 身近なコケ(4)

公園の大きな樹の幹には、前回紹介しましたセン類のほか、タイ類のフルノゴゴやカラヤスデゴケなども着生しています。

フルノゴゴケは小さなかたまりや、幹を包み込むように全体に着生しています。乾燥している時と湿っている時とでは、見た目の印象は大きく異なります。乾燥しているとき、丸い葉は左右にやや重なり合っていますが、水分を含むと葉は開き、柔らかい感じです。

秋になると蒴は4つに割れ、小さなお花畑のようです。

カラヤスデゴケは、樹の幹や石垣に着生します。チョコレート色の糸くずのように、枝分かれしながら密着しています。ルーペで見ると、丸い葉は、互い違いにつき、ところどころで枝分かれています。春に葉先から、黒くて丸い蒴が顔をだし、ベージュを帯び、花のように4裂します。

(山根)



樹幹のフルノゴゴケ



湿潤の時のフルノゴゴケ



フルノゴゴケの蒴



樹幹のカラヤスデゴケ



カラヤスデゴケの拡大



## 研修会のご案内

- |   |   |
|---|---|
| ○ 5月11日(土)『春のバードウォッチング』<br>※ 自由参加・無料・双眼鏡持参                                    | 10:00～12:00 学習展示館前 集合<br>講師：日本鳥類保護連盟会員<br>吉見 良一             |
| ○ 5月12日(日)『第5回ひろしま遊学の森<br>こども写生大会』<br>春の緑化センターを描こう<br>※ 自由参加・無料, 画材(画用紙以外)持参  | 10:00～12:00 学習室 集合<br>講師：元中国新聞社図画教室<br>指導審査員 横山 直江          |
| ○ 5月15日(水)『5月の自然探勝』<br>春の香りは・・・<br>※自由参加・無料                                   | 10:00～12:00 学習室 集合<br>講師：広島県文化財保護<br>審議会委員(植物生態学)<br>吉野 由紀夫 |
| ○ 5月19日(日)『フウランを育てよう』<br>フウランのへゴ付けと鉢植えに挑戦<br>※ 要予約 (先着30名), 材料代1,000円         | 10:00～12:00 学習室 集合<br>講師：森林インストラクター<br>長井 稔                 |
| ○ 5月22日(水)『コケと草花の観察会』<br>園内のコケと草花を観察します<br>※ 自由参加・無料, ルーペ持参                   | 10:00～12:00 学習室 集合<br>講師：広島大学名誉教授<br>関 太郎                   |
| ○ 5月23日(木)『庭木の病虫害教室』<br>薬剤散布について学ぼう<br>※ 自由参加・無料                              | 10:00～12:00 学習室 集合<br>講師：樹木医<br>菅 信貴                        |
| ○ 5月26日(日)『ひろしま遊学の森で<br>こんちゅう探検隊』<br>春の昆虫と草花を探そう<br>※ 要予約 (先着15家族)・無料, 採集用具持参 | 10:00～12:00 学習室 集合<br>講師：広島市森林公園<br>こんちゅう館技師 藤井 智展          |
| ○ 5月31日(金)『松の手入れ(春)』<br>マツのみどり摘みを実践しよう<br>※ 要予約先着20名・無料, 剪定鋏・手鋸持参             | 10:00～12:00 学習室 集合<br>講師：NPO法人 樹木医ひろしま<br>工藤 徹              |

### ◎ 展示会

場所:学習展示館

・緑化センター 季節の花写真展 5月11日(土)～6月30日(日)

場所:レストハウス(ボード展示)

・コケ 写真展 5月11日(土)～6月30日(日)

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

・第18回 ひろしま「山の日」県民の集い (レストハウス前広場)

6月2日(日) 10:00～15:00



緑化センター季節の花写真展

森の手入れ、ネイチャーゲーム、木の実や枝で自由工作、折り紙ヒコーキ飛ばし、  
ノルディック・ウォーク体験会、丸太切り体験、草花販売など